

アメリカ人の James Curtis Hepburn(ジェームス・カーティス・ヘボン)によって、下記のヘボン式ローマ字が考案されました。これは日本語の発音に近い英語のつづりを採用していて、地名・駅名・パスポートの人名表記などにおいて広く使用されています。

例えば「し」は「si」ではなく「shi」と表記するなど、気を付けるポイントを動画で確認しましょう！

解説動画は
こちらから



a (ア)	i (イ)	u (ウ)	e (エ)	o (オ)	—	—	—
ka (カ)	ki (キ)	ku (ク)	ke (ケ)	ko (コ)	kya (キヤ)	kyu (キュ)	kyo (キョ)
ga (ガ)	gi (ギ)	gu (グ)	ge (ゲ)	go (ゴ)	gya (ギヤ)	gyu (ギユ)	gyo (ギョ)
sa (サ)	shi (シ)	su (ス)	se (セ)	so (ソ)	sha (シャ)	shu (シュ)	sho (ショ)
za (ザ)	ji (ジ)	zu (ズ)	ze (ゼ)	zo (ゾ)	ja (ジャ)	ju (ジュ)	jo (ジョ)
ta (タ)	chi (チ)	tsu (ツ)	te (テ)	to (ト)	cha (チャ)	chu (チュ)	cho (チョ)
da (ダ)	ji (ジ)	zu (ズ)	de (デ)	do (ド)	—	—	—
na (ナ)	ni (ニ)	nu (ヌ)	ne (ネ)	no (ノ)	nya (ニヤ)	nyu (ニユ)	nyo (ニョ)
ha (ハ)	hi (ヒ)	fu (フ)	he (ヘ)	ho (ホ)	hya (ヒヤ)	hyu (ヒユ)	hyo (ヒョ)
pa (パ)	pi (ピ)	pu (プ)	pe (ペ)	po (ポ)	pya (ピヤ)	pyu (ピユ)	pyo (ピョ)
ba (バ)	bi (ビ)	bu (ブ)	be (ベ)	bo (ボ)	bya (ビヤ)	byu (ビユ)	byo (ビョ)
ma (マ)	mi (ミ)	mu (ム)	me (メ)	mo (モ)	mya (ミヤ)	myu (ミユ)	myo (ミョ)
ya (ヤ)	i (イ)	yu (ユ)	e (エ)	yo (ヨ)	—	—	—
ra (ラ)	ri (リ)	ru (ル)	re (レ)	ro (ロ)	rya (リヤ)	ryu (リュ)	ryo (リョ)
wa (ワ)	i (イ)	u (ウ)	e (エ)	o (ヲ)	—	—	—

※太枠内の文字はヘボン式ローマ字特有の書き方です。注意しましょう。

(注1) 「ん」は「n」で表します。(例:「本」hon)

ただし、b, m, p の前では「m」で表します。(例:「散歩」sampo)

また、a, i, u, e, o, y の前では「n'」で表します。(例:「遠泳」en'ei)

(注2) つまる音の「っ」は、続く文字を重ねて表します。(例:「切手」kitte)

ただし、c の前では「t」で表します。(例:「察知」satchi)

◆練習問題◆ 次の言葉をヘボン式ローマ字で書きなさい。

(1) 寿司 (すし)

(2) 藤 (ふじ)

(3) 地下鉄 (ちかてつ)

(4) 津波 (つなみ)

(5) 会社 (かいしゃ)

(6) 樹木 (じゅもく)

(7) お茶 (おちゃ)

(8) 手話 (しゅわ)

(9) 切手 (きって)

(10) 河童 (かっぱ)

(11) 抹茶 (まっちゃ)

(12) 日直 (にっちよく)

(13) 漢字 (かんじ)

(14) 箏箏 (たんす)

(15) 天麩羅 (てんぷら)

(16) 新聞 (しんぶん)

(17) 東京 (とうきょう)

(18) 九州 (きゅうしゅう)

(19) 北海道 (ほっかいどう)

(20) 神戸 (こうべ)

(21) 相撲 (すもう)

(22) 磁石 (じしゃく)

(23) 鋤焼 (すきやき)

(24) 札幌 (さっぽろ)

(25) 社会 (しゃかい)

(26) 柔道 (じゅうどう)

(27) 漫画 (まんが)

(28) 広島 (ひろしま)

(29) 神道 (しんとう)

(30) 空手 (からて)

(31) アニメ

(32) 京都 (きょうと)

(33) 土筆 (つくし)

(34) 大阪 (おおさか)

(35) カラオケ

(36) 兵庫 (ひょうご)
